

稲作気象台情報第1号

平成28年7月15日

東播磨農業改良普及事業協議会

7月に入り、気温は平年より高く推移しています。気温が高いため、分けつが旺盛になり、茎数が平年より多い傾向となっています。6月2日付けで、兵庫県病害虫防除所から発表された「病害虫発生予報」では、ヒメトビウンカや海外飛来性ウンカ類(セジロウンカ)の発生が平年に比べやや多いと予想されています。また、BLASTAM(水稻いもち病発生予測システム)によると、三木市で6月19日に、明石市で6月29日に、葉いもちの感染好適日が出現しています。今後の気象条件によっては、いもち病発生の可能性があります。既に病斑が認められたほ場では、その後の進展に注意し、早期の防除を心掛けてください。

1. 6月から7月中旬の気象・生育

気象庁によると今年の梅雨入りは6月4日頃で、平年より3日早くなりました。梅雨入り後は平年より降水量が多く、平均気温は高めに推移しています。

気温が高いため分けつが旺盛になり、茎数が多くなる傾向にあります。

2. 病害虫の調査結果(7月14日調査)

<病害>

	葉いもち	紋枯病	縞葉枯病
発生状況等	少ない	少ない	確認せず

病害の発生は全調査地点(19箇所)で少ない状況でしたが、葉いもちの発生が調査6地点(加古川市、高砂市)で見られました。今のところ発病株率、発病の程度ともに少ない状況ですが、今後も曇天が続くなどの天候状況や、施肥等による稲の栄養状態によっては上位葉への進展により、穂いもち発生の可能性もありますので、発生状況の確認に努めてください。

また、紋枯病については、第4葉鞘以下の発病ですが、調査2地点(加古川市、高砂市)で発生が確認されました。今後、梅雨明けとともに温度が上昇すると、発生する可能性があるので注意してください。

<虫害>

	ヒメトビウンカ	セジロウンカ	トビイロウンカ	ツマグロヨコバイ
発生状況等	少ない	少ない	確認せず	少ない

今回の調査では、近年の同時期の調査と同様にウンカ類の発生は全般に少ない傾向でした。しかし、今後も台風の接近などに伴いウンカが飛来し、8月下旬から9月下旬頃に気温が高い年には、稲作後期のウンカの増殖率が高くなり、被害を及ぼすことがあるので、引き続き発生動向に注意して下さい。

3. 今後の管理について

(1) 水管理

〈キヌヒカリ〉中干しが終わり、入水時期になります。中干し期に出た新しい根を湛水状態に馴らすため、間断灌水(田面に水がなくなれば入れる)を実施し、丈夫で活力のある根を維持するよう心掛けましょう。

〈ヒノヒカリ〉有効茎数の8割(株当たり18～20本)が確保できれば1週間程度中干しを行います。中干しが終わった後は、間断灌水に切り替えます。

(2) 病虫害防除

今回の調査で葉いもちの発生は、東播磨管内の中西部での少発生という状況でした。しかし、今後の気象条件や生育状況によっては、まだ発病のないほ場でも発生する可能性があります。葉色の濃い箇所や日当りの悪い箇所などは、観察を継続し、葉いもち病が発病していないかを確認して下さい。発生している場合は、ダブルカット粉剤DL、ブラシン粉剤DL、コラトップ粒剤5等、治療効果のある薬剤で防除を実施して下さい。なお、薬剤は使用時期(収穫前日数)や使用回数等の使用基準を確認、遵守の上、散布を実施して下さい。

*斑点米(カメムシ類)対策の徹底

斑点米の原因となるカメムシ類は、雑草が繁茂しているところに集まり繁殖します。出穂の2週間前までに畦畔の草刈りを終えることが対策として重要です。合わせて、カメムシの居場所をなくすため、周辺の休耕田等の草刈りを実施しましょう。なお、出穂期の畦畔等の草刈りは、カメムシ類を水田に追い込み逆効果となる場合があるので注意が必要です。

(3) 施肥管理

穂肥は栽培こよみを参考に葉色、生育に応じて、適期に施用します。

基肥に緩効性肥料を入れる一発施肥の省力体系でも、高温が続く場合は肥切れを起こすことがありますのでよく観察しましょう。なお、葉いもちの発生ほ場では、いもち病の発生状況によって穂肥を調節(発生があれば控えめに)します。

※ 予想出穂時期 ・キヌヒカリ 8月上中旬頃・ヒノヒカリ 8月下旬頃です。

こちらの气象台情報は、あかし農協のホームページでもご覧いただけます。

【 ホームページアドレス <http://www.ja-akashi.or.jp/> 】

次号の発行予定は、(第二号 8/4頃、 第三号 9/5頃)となっております。